

(別紙様式2：小学校用)

都道府県番号	6
都道府県名	山形県

【 】

学校名及び規模

学校名	寒河江市立寒河江中部小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	4	1	25	36
児童数	101	112	123	113	115	132	3	699	

研究の概要

(1) 研究主題

学ぶ喜びのある授業づくり
～基礎・基本の定着をめざして～

(2) 研究主題設定の趣旨

本校は大規模校であり、子どもは多様な個性を有している。子ども同士で広く交流できる良さがある反面、個人差が大きく、基本的な学習習慣・学習内容が定着しにくい一面もある。また、与えられた課題に対してはまじめに取り組めるが、自分で課題を見つけ、考えたり、調べたり、表現したりすることに対して消極的で受身的になる面もみられる。

そこで、知識・技能はもちろん大切にしながら、学ぶ意欲や思考力、表現力まで含めた総合的な学力を育てていくことが重要であると考えた。学習内容の基礎・基本を厳選し、個に応じたきめ細かな指導と交流による学び合いを行うことにより、基礎・基本を確実に定着させるとともに学ぶ喜びを味わわせ、確かな学力の向上を目指していきたいと考え本テーマを設定した。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

学年部会の充実

大規模校の良さを生かし、学年部での話し合いの時間を十分に確保することによって児童の実態を的確に把握し、『付けたい力』を明確にして共同教材研究に取り組む体制を作る。また、同じ学年の中で互いに授業を開き、学ぶ喜びのある授業づくりという共通の目標を持って学力の向上をめざす。

TT指導・少人数指導体制の確保

教務主任・副教務主任・少人数指導担当の4名の教諭が低・中・高学年の授業(国語・算数の重点単元)に入り、担任と協力してTTと習熟度を含めたコース別指導に入る。

(2) 研究の実際

3年 国語科『レッツ 作文!』(作文の力を鍛えよう)の実践から

ア 児童の実態に応じたコース設定

段落構成ができなかったり表記を間違ってしまったりする子どもも見られることから、全体的に文章を書く力が付いていないと考えられた。そこで学年一斉に文章を書く学習を年間計画に組み込もうと試みた。しかし、各クラスで行うには一人一人の書く力の差が大きく、個に応じた指導にはなりにくいと予想され、学年をオープンにした4つのコース別指導形態をとることにした。

花丸いっぱいコース...表記に関する事項の学習に重点を置くコース

おしゃべり大好きコース...会話文を使うことで文章が生き生きすることに気づき、中心を明確にして文章を書くコース

作文変身コース...推敲・評価に関する事項の学習に重点を置くコース

作文ハウスを作ろうコース...段落を構成しながら文章を組み立てていくコース

イ ねらいを明確にした各コースの指導内容の工夫

コースごとのねらいを明確に提示し、子ども自身が自分の一番伸ばしたい能力・技能を振り返りながら選択させ、目的意識をもって授業に臨ませた。コースごとに子どもの実態に合った指導内容を構成した。

花丸いっぱいコース

「は」「へ」「を」を正しく使おう。 「、」や「。」を正しく打とう。

「 」を正しく使おう。

鉛筆を動かして書く活動を多く取り、これらの内容を定着するようにした。また、各時間のまとめの段階では、学習したことを意識して短作文を書く時間を設定した。

このコースでは、TTを取り入れ、個別指導を多く行った。

おしゃべり大好きコース

子どもたちが会話を意識しやすいように、三コマ漫画を教材にして、吹き出しに入れた部分が「 」になることや「 」があることで情景や心情が生き生きと表現されることに気づかせた。漫画を文章に書き起こす学習を通して、吹き出しの部分を「 」に表すことがわかり、行替えもスムーズにすることができた。

作文変身コース

みんなで共通の文章を読み合い、良いところや直したほうが良いところについて話し合い、推敲の仕方について理解させた。次に自分の文章を推敲し、友達と交換して読み合い、良いところを発表しあった。間違いを直すだけでなく、主題に迫る文章になるためにどんなことを書き加えたら良いのかまで考える子どもも見られた。

作文ハウスを作ろうコース

ある程度の内容や量が書け、表記の決まりも定着している子どもたちには、伝えたい内容が明確で、まとまりのある文章を書けるように、構成を意識させた。作文ハウスという名前をつけたメモを書いてから、書かせていった。

書く内容の中心【家の土台】、工夫した題名【屋根】、書きたい出来事や思い【柱】など、家を建てていくように構想を立てて文章を書く学習を行った。

ア 子どもの実態から始まる学年共同教材開発

全体に埋もれて意見は持っていないもなかなか自分を表現できない子，叙述からイメージを膨らませて読む力が落ちている子，語彙が広がらない子などが見られる。多様な読み味わい方を通して **叙述に即して読み取る力・自分の言葉で表現できる力**を付けたいと考え，4つのコースを設定した詩の学習に取り組んだ。

(ア) なぜ詩の学習か

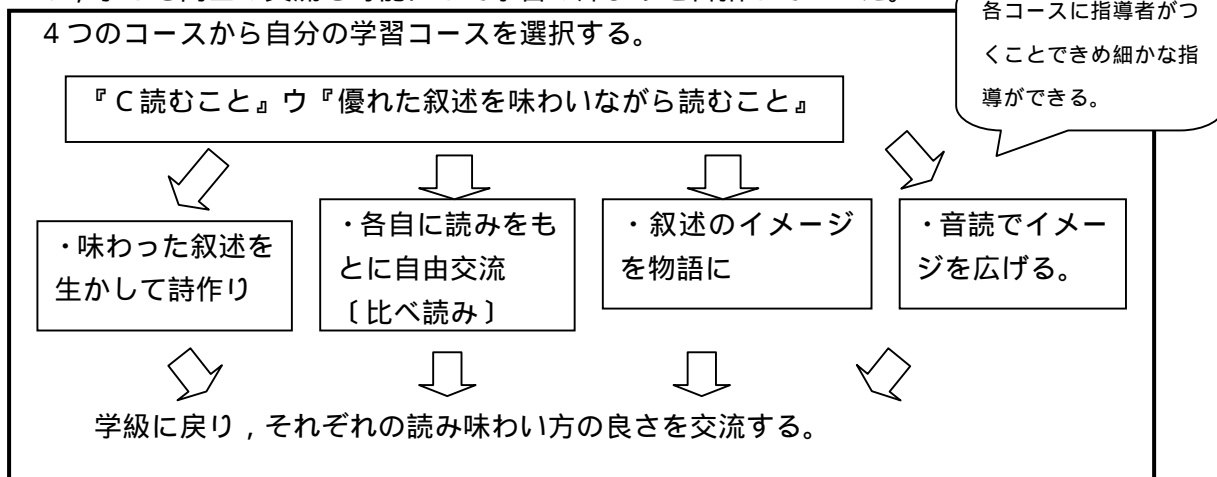
- ・ 優れた叙述が多く，言葉の感覚を磨き語彙を増やすことができる。
- ・ 叙述が短いので自分なりに想像して読み味わうことができる。
- ・ 一人一人の感受性がそのまま表現される魅力がある。
- ・ 単元の指導を比較的短時間で仕組むことができる。

(イ) コース別学習の概要

コース名	A 詩を作る	B 比べ読み	C 物語を書く	D 音読
コース設定の理由	場面設定を意識して詩を作ることで，詩を読む時も場面設定を意識し，作者の思いに近づくことができる。	2つの詩を一緒に読むことで1つの詩だけの読みよりイメージが広がり，読みを深めることができる。	叙述を膨らませて書くことにより，その詩のイメージをより明確にすることができる。	叙述に即して，声の大きさ速さを工夫しながら音読することによってより深く読み味わうことができる。
学習で扱う詩	工藤直子 ・ かげにゆられて ・ はきはき ・ うちをつくろう	草野心平 ・ 梟と蛙 ・ るるる葬送 ・ 一匹を慕う二匹の会話 ・ ぐりまの詩	金子みすず ・ 大漁	山田今次 ・ あめ 阪田寛夫 ・ おとなのマーチ

イ 付けたい力を個に応じた指導体制の工夫

児童一人一人の興味関心を大切に，一人1コース担当制をとることにより，各コースの重点的指導を実施した。1コースの学習集団も24人～32人の適正規模を構成し，子ども同士の交流も可能にして学習の深まりを目指していった。



ウ コースごとの適切な評価と支援の工夫

一人1コース担当制をとることにより、各コースの目標を明確にした指導を行うことができた。評価を行う際には、評価規準に照らして、子どもがおおむね満足できる状況に到るためのより具体的な支援ポイントを設けた。

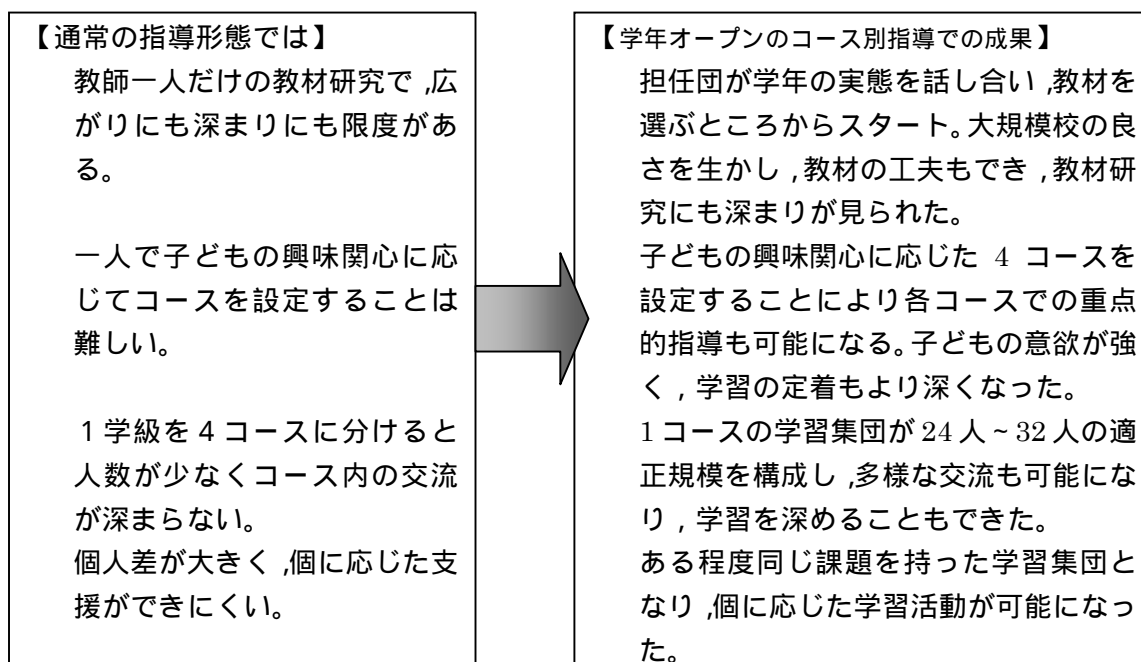
<p>Aコース 【詩を作る】 互いの作品を読み合い、感想を言ったりアドバイスをしたりしている。(学習プリント・発言) 学習プリントに特徴・場面・気持ちの書き込みをさせる。 よいところを言ってあげるだけでも、素晴らしいアドバイスであることを知らせる。</p>	<p>Bコース 【比べ読み】 関連性のある表現に気づき、話し合っている。(発言・学習プリント) 2編の詩に共通して使われている言葉・逆の言葉に線を引かせる。 友達の見つけた関連ある言葉について納得できたら、自分のプリントに書き込ませる。</p>	<p>Cコース 【物語を書く】 友達の表現を参考にしてイメージをふくらませ、物語を書いている。(学習プリント) イメージをふくらませるため、参考になる写真を見せる。 表現をまねさせる。</p>	<p>Dコース 【音読】 音読の工夫の仕方の違いの良さを感じ取っている。(発表) 感想をまとめられない子には、自分たちとの違いという視点で、アドバイスカードに書けるように助言する。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

：評価規準（評価方法）

：評価規準に照らした具体的支援

(3) 研究の成果と課題

成果（これまでの指導との比較から）



課題

コース別学習では、コースごとの教材研究、学習内容、学習進度、評価などの打ち合わせに相当の時間が必要になる。そのための計画的な時間の確保が必要である。

習熟度別を含むコース別学習では、保護者や児童の劣等感や差別意識などを持たせないような十分な配慮が今後も更に必要である。

個に応じた指導を工夫すると共に、交流を通しての学びを更に効果的にするための手立ても検討していかなければならない。

評価は、教師による評価と児童による自己評価を進めたが、一人一人の児童の学習状況の把握は十分とは言えない。個に応じた指導に生かすためにも一人一人の学習を見取るための方法を検討していかなければならない。

(4)研究成果の普及の方策

研究紀要の作成と配布予定

公開研究会開催予定 平成 16 年 10 月 1 日(金) 午後

次の事項ごとに、該当する箇所をチェックすること。

【新規校・継続校】	<input checked="" type="checkbox"/> 1 5 年度からの新規校	1 4 年度からの継続校
【学校規模】	<input type="checkbox"/> 6 学級以下	<input type="checkbox"/> 7 ~ 1 2 学級
	<input type="checkbox"/> 1 3 ~ 1 8 学級	<input type="checkbox"/> 1 9 ~ 2 4 学級
	<input checked="" type="checkbox"/> 2 5 学級以上	
【指導体制】	<input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導	<input checked="" type="checkbox"/> T T による指導
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部教科担任制	その他
【研究教科】	<input checked="" type="checkbox"/> 国語	<input checked="" type="checkbox"/> 算数
	社会	理科
	生活	音楽
	体育	図画工作
	その他	家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

寒河江中部小学校は、大規模校という学校の特色を最大限に生かし、絶えず「付けたい力の明確化」を意識しながら学校改革の中核としての授業改善を精力的に推進しています。コース別学習では、活動が多彩になるだけに、ねらう力が不明確になりがちです。上述の「レッツチャレンジ 詩の学習」では4つのコースを貫いて付けたい力を「優れた叙述を読み味わうこと」に重点化しています。

このことが指導の質を変えました。例えば、「物語作り」のコースでは、単に詩をもとにして自由に物語を書くことをねらうのではなく、詩の同一部分の叙述をどのように物語に書き表したのかを検討し合いました。このことによって、詩の描写を、イメージを膨らませながら読み味わうという「読む能力」を確かに育成していました。

このような実践を支えるのが「学年共同教材開発」です。単に大規模校だからできる、という発想ではなく、本校の特色を最大限に生かす手法は何か、という発想によって生まれたものです。こういった発想の転換が、今、強く求められています。